

～日本古来の製鉄法 “たたら製鉄”～

第25回 古代たたら鉄づくり体験 開催!



昨年の「古代たたら鉄づくり体験」の様子(2018年5月26日・27日撮影)

春の恒例行事「古代たたら鉄づくり体験」を開催します。中国山地文化の象徴である日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の感動をより多くの方々と共有し、古から続くこの「たたら製鉄」の技術を守り、伝えていくことを大切な使命と考え、平成7年の開園以来、地域をあげて毎年継続して行ってきた貴重な行事で、今年で25年目を迎えます。今後も出来るだけ多くの皆様方にご参加いただき、この歴史と技術と「ものづくり」の精神を次の世代に伝えるべく取り組んでいきます。

- 【開催日】 2019年5月11日(土)・12日(日)
【場所】 ひばの里 古代たたら工房
【内容】 日本刀の材料となる玉鋼を製造する日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の操業の一連の工程を再現します。砂鉄と炭を燃やして鉄をつくる力強い営みを体感していただきます。
【指導】 国選定保存技術保持者 日刀保たたら 村下 木原 明氏
【参加】 約100名(一般参加者・協力団体含む)
【料金】 観覧無料
※1泊2日体験は有料

お問い合わせ先

国営備北丘陵公園 備北公園管理センター

企画広報課長： 竹本(たけもと)
企画広報係長： 末長(すえなが)

〒727-0021 広島県庄原市三日市町 4-10
TEL：0824-72-7000 FAX：0824-72-7828
メール：bihoku-kikaku@quartz.ocn.ne.jp
ホームページ：<http://www.bihoku-park.go.jp>

「古代たたら鉄づくり体験」参加者募集！



日刀保たたら村の村下 木原さんの指導で「たたら」製鉄を体験！

「たたら」とは？

土で造った炉で木炭の火を「ふいご」を使って火の勢いを強め、高温にして砂鉄を溶解還元して行う鉄づくりを「たたら」といいます。「たたら」で出来た鉄は「玉鋼(たまはがね)」と呼ばれ、日本刀の材料に使われています。

- 開催日：2019年5月11日(土)～12日(日)
- 場所：ひばの里 古代たたら工房
- 募集人数：20名・・・事前予約制(4月26日(金)迄にご連絡ください。)

定員に達したため、募集を終了させていただきます。

- 5/11(土)参加
- 体験内容について
 - ①以下のプログラムの体験が出来ます。(一部見学となる場合があります。)
 - ②食事(下記の4食分)付きです。宿泊される方は屋内で仮眠(寝袋)ができます。夜間は冷え込む場合がございますので、防寒着をご持参ください。
 - ③ご持参頂くものについて：軍手、タオル(2～3枚)、長い靴下、マスク(2～3枚)、動き易く汚れても構わない服(可燃性の材質は不可)

お問合せ
お申込先

古代たたら鉄づくり体験実行委員会 事務局
(備北公園管理センター内)
TEL (0824) 72-7000

.....プログラム(体験進行表).....

	9:00	12:00	15:00	18:00	21:00	24:00
5月11日(土)	下灰作業	下灰作業				
	土練り ブロック作り	土練り・ブロック作り				
	築炉		築炉			
	炭の小割		炭出し・炭の小割			
	炉乾燥			炉乾燥(23:00まで)		
	食事		昼食		夕食	
	その他			★ 17:30～18:00 25周年記念行事 「早苗ネネ 和歌うた小倉百人一首コンサート」		

【下灰作業】



薪を焚き、地面を乾燥させると共に、生木の棒(しなえ)や掛矢を使っておきを粉炭状になるまで叩く作業です。

【土練り、ブロック作り】



築炉用の粘土を練りブロックを作ります。炉に使用する土は操業の成否を決める重要な役目を果たします。

【築炉】



土を練り、炉をきずきます。炉が築けると火入れ当日の早朝まで薪を燃やし炉を乾燥させます。火入れは5月12日(日)午前2:30です。

【炉乾燥】



	24:00	3:00	6:00	9:00	12:00	15:00	16:00	
5月12日(日)	火入れ	★ 2:30頃						
	参拝	★ 4:00頃						
	初種式	★ 4:30頃(予定)						
	操業		操業(吹子、自動送風)					
	操業		操業(足踏み・手押し吹子)					
	けら出し				★ 2号炉(12:30予定)			
	食事			朝食	昼食	★ 1号炉(15:30予定)		

【操業】



炉に砂鉄と木炭を交互に入れ、「ふいご」で風を送り砂鉄を溶かします。ふいごには、「足踏みふいご」と「手押しふいご」があります。

(足踏みふいご)



(手押しふいご)



【たたらクライマックス「けら出し」】



送風管を外し、長い柄のかぎを高熱で溶けた土の炉内縁に掛けて、両側から引き崩し、けらを取り出します。